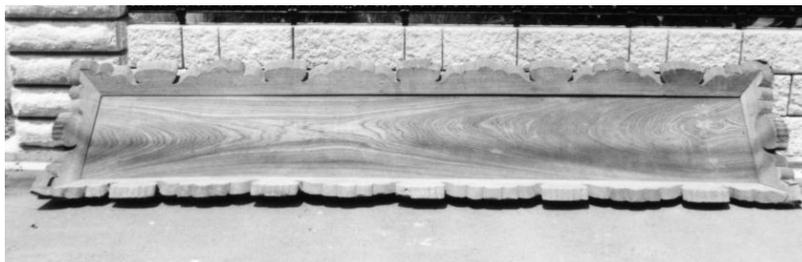


じょうせいじ まつぶしじっけいえいがく
「静栖寺の松伏十景詠額」

松伏町指定有形文化財（歴史資料）
平成17年4月22日指定

静栖寺（田中）にあった観音堂に寄進された詠額です。寄進者は石川民部幸義、年代は享保18年（1733）です。当時の松伏村内で風景の良い場所を十ヶ所選び、漢詩と短歌にして額に刻んでいます。漢詩と短歌の作者は、石川家や静栖寺に関係する人々です。

松伏村で桃の栽培が盛んになるのは後の天明年間以降のことで、そのためか桃の花を題材とした詩はありませんが、すでに失われてしまった江戸時代の風景を今に伝える貴重な資料です。



松伏十景詠額

「香取鏡池」

石川幸義

径辺祝祭此留神 湛々鏡池清且新
沢及戸村流不尽 靈光照徹幾千春

岩田重具

よしあしを鏡の池や□□の
清き心に月や□□
□□
□□

「静栖晚鐘」

法印尊心

日落遥聞九乳声 隔雲一寺暗前程
旅人欲問幽棲響 静送夕陽不負名

法印尊阿

里とおくなおも静に栖寺の
□に響く入相のかね

「松木納涼」

石川幸定

松色青々当路深 不知世上暑塵侵
行人佇立忘帰処 六月秋風一樹陰

松井隠士

常盤へる緑の色の□見へて
ながれすゝしき松の下風

「西光夜雨」 法印仲温

蕭寺对灯隔世塵 寂然夜雨伴閑人
閑人元是比琴筑 故著梵音一段新

法印尊心

心あれや□□古寺の軒の雨
うきよの外を傳ふ玉水

「関場泊舟」 岩田重具

地称関場薪粟収 積来積去数帆留
棹歌交错滿村富 幾舶至茲繫万秋

石川幸義

遠近□のとふりの船の数□て
□□も□□に關も戸らす

「前野秋月」 森田清貞

渺茫前野一輪奇 香稻斜風随意吹
鶴刷寒月清似雪 農夫共立月昇時

同

詠れ□あわれもふかくなく鶴の
稲葉に落る舊の月

「杉山帰樵」 石川幸定

杉山深处避塵情 肩上負薪心上輕
樵父不迷名利路 草廬帰去樂平生

同

こり□る□ま木を□の□□て
今日もくれぬと帰山人

「溜川蓮花」 石川幸久

一片芙渠一水浜 花成玉矣葉成輪
濂溪不隔溜川興 日々欲期君子人

法印仲温

心して詠る人のため川や
濁りにしまぬ花の下風

「河原眺望」 法印尊阿

目前群邑水涯連 渺々河原簇靄煙
回首吟望無限量 一般郊野布青氈

同

古河原とをく見るにも春の霞
ひとつにこむる千の山水

「観音白桜」 法印尊阿

応現大悲一淑光 布来華木發清香
香雲不与慈雲隔 爛漫白桜垂玉堂

石川幸久

年をへて深き想いに桜花
こころをそめて折る里人

※□は判読不能。□で囲んだ文字は推測。